

当たり前に感じていることを見返してみませんか！

「病気になって初めて健康のありがたみが分かる」という言葉をよく聞きます。普段の生活が当たり前と考えると感謝の気持ちは湧きません。そして、そんな気持ちで生活していると、ある時、トラブルに遭遇し平凡な毎日は実は当たり前ではなかったことに気づかされるのです。

◆ ありがたさの再認識

人は常に公私を問わず周りの人に、サポートを受けているものです。

他の人が自分に何かをしてくれるということは、言葉であれ、動作であれ、時間と労力を使っているということですが、それに気づかなければ感謝の気持ちは芽生えてきません。もし、何も感じないと言う人は、それを当たり前と思っているからではないでしょうか。

当たり前のことが当たり前ではなくなった時、人は初めて周りの人たちに支えられていることに気づきます。その時にはもう手遅れとなっているかもしれません。

◆ 当たり前のことなど存在しない

みなさん、今の職場で働いていることを当たり前と感じていませんか。

「喉元過ぎれば熱さ忘れる」という言葉がありますが、感謝したのは採用された時だけですか。今の会社で働き続けられているのは、様々な人が関係しているはずです。「仕事を教えてくれた先輩や上司」「頑張って会社を大きくしてくれたOB」「福利厚生、給与管理を担当してくれる人、営業をしてくれる人」「会社の創業者、経営者」、そして「県南に入校してくださるお客さま」等々、掘り下げていけば今働いている環境がいかに恵まれているかを感じることができるでしょう。

「会社から給料をもらう、仕事では誰かがサポートしてくれる、黙っていてもお客さまは入校してくる」のは当たり前という気持ちがあっては、感謝の気持ちが育つどころか、何も感じないまま時間だけが消え去ってしまうでしょう。

私たちは、当たり前は当たり前ではないことに気付くことが大切です。当たり前のことなど存在しないということをしかりと認識し、今日一日の自分の行動を振り返って自分がお客さまや会社に貢献したことは何かを考えてみませんか。

◆ 教習料金に見合う評価で満足していませんか

私たちの仕事は、教習生に交通安全の大切さを教えながら運転免許を取得させることです。

県南では昨年約1,000名の教習生を卒業させており、教習生や保護者の方から「窓口の対応が良かった。短期間に卒業させてもらいありがとう。」というような感謝の言葉を頂いていますが、教習料金を頂いている以上それは仕事として当たり前のことです。

教習料金以上の評価をもらえて、初めてプロの仕事であると思います。

みなさんは、それ以上の評価とは何だと思えますか。